

平成 25 年度 事業シート

第5次廿日市市総合計画（後期基本計画）

基本目標 1 健やかな暮らしを支え、安全で快適に暮らせるはつかいち
政策目標 3 やさしい心で支え合い、健やかに暮らせるまちに
重点的取組 3 高齢者や障がいのある人など誰もが自分らしく地域で暮らせるよう支援する

担当課名		自治振興部 協働推進課	
予算科目	予	会計	01 一般会計
	算	款	02 総務費
	科	項	01 総務管理費
	目	目	06 企画費

事業名	国際交流事業	事業開始年度	平成 5 年度
	外国人住民支援事業	根拠法令 条例 個別計画 等	廿日市市国際化推進指針(平成25年1月策定)

1 事業の目的、意図

目的	【対象】誰の(何の)ために	【目指す姿・意図】(いつまでに、どういう状態に)
	市民(主に外国人市民)	多様な市民がつながり、自分らしく暮らせる交流・共生のまちを築く

2 事業の実施主体・関係団体・役割

実施主体	関係団体(パートナー)	事業実施に係る市役所(職員)の役割
市	市国際交流協会・市民活動グループええじゃん	・外国人市民の言語的支援、生活支援

3 平成 25 年度 決算（事業の内容・コスト情報・目標到達見込）

実施した事業の内容（活動実績）

第5次総合計画に掲げる重点的取組み「誰もが自分らしく地域で暮らせるように支援する」ために、多文化共生の地域づくりに向け、外国人市民に対する支援を行った。

○多文化共生相談員設置事業

- 必要性の高い言語に対応した相談員を設置し外国人市民に対する窓口相談・手続きのサポートを行なった。
中国語・タガログ語・英語を母国語とする相談員を配置 2名
- 行政情報(母子手帳ほか母子保健サービス、国民健康保険税通知文等)を中国語・タガログ語・英語に翻訳
- 異文化理解・多文化共生の意識啓発事業として、広報紙への記事掲載や児童館・小学校での講座を実施した。

○多文化共生推進事業

- 外国人市民を対象とした日本語教室を国際交流協会に委託し開催した。
串戸市民センター 毎週火曜日 19時～20時30分
市民活動センター 毎週金曜日 14時～15時30分
- 日本語支援者の養成
日本語支援を行うボランティアが研修会に参加し、活動者同士で情報共有を行ない資質向上を図った。

○多文化共生連絡協議会への参加

多文化共生の地域づくりを進めるため広島県が設置している、ひろしま多文化共生連絡協議会に参加し、県内市町との情報交換を行なった。

【歳出】

多文化共生相談員（報酬・旅費）	2,068,917 円
多文化共生推進事業委託料	140,433 円

コスト情報（円）

項 目		平成 24 年度決算	平成 25 年度決算①	①のうちH24から繰越	H25からH26へ繰越
財源内訳	直接事業費 A	2,489,646	2,209,350		
	国庫支出金	2,361,000			
	県支出金				
	借入金（市債）				
	その他(使用料など)				
	市（市税など）	128,646	2,209,350		
人件費（按分）B		0.15 人 1,315,800	0.15 人 1,272,900		
総事業費（A+B）		3,805,446	3,482,250		
単位コスト換算	① 人口（4月1日現在）	118,000 人	117,680 人		
	② 市民1人当たり	32	30		
	③				

到達目標

活動及び成果指標		単位	H24実績値	H25目標値	H25実績値	H27目標値	備考
活動成果	外国人市民の相談対応等の実施	件数	56	80	99	100	
	日本語教室開催場所の増加	教室数	2	3	2	4	
	日本語教室に通う外国人の増加	人	7	13	8	15	1 回の平均
	母国語以外で日本語が良く分かる人の割合	%				45	アンケート結果